



福祉と住環境を考える

ふくてっく

559-0034 大阪市住之江区南港北 2-1-10 ATC・ITM 棟 11F エジレスL
TEL 06-6614-6800
mail@fukutech.sakura.ne.jp http://fukutech.sakura.ne.jp/

2010年12月
第79号

特定非営利活動法人

ふくてっく

今年度は『みんな、やりたい!』を合言葉に
〜第9回 定期総会を終えて〜

〜第9回 定期総会を終えて〜

平成二十一年度も、例年通りNPOとして第九回となる定期総会を開催しました。

事務局そして六部会から活動と収支の報告を経て、二十一年度事業報告・決算報告が承認され、ついで二十二年度の事業計画と予算案が異議無く承認されました。年に一度の総会は「みんな」が一同に集って会全体の進路を確認・協議し、意識を共有する貴重な機会です。その意味で、今回も大変意義深い総会でした。

さて、昨年掲げた中期計画も二年目を向かえました。「元氣な部会活動」をテーマに、各部はミッションの確認や活動内容の見直しを鋭意進め、更なる進化を目指す動きが出てきました。今後当会が取り組むべき「求められる活動」に邁進する、改革の動きに期待して、会員「みんな」で見守り、育んでいきたいものです。そんな中、従前から

十分に基盤の整った部は、例年通りの活躍ぶりでした。

例えば木工部では、恒例の「子ども木工教室」はいずれも好評で、各区・諸団体等からの依頼がリピートする。これは、部員の熱心な研究開発によるマンネリ化する事のない創作努力の賜物です。また木工教室に参加する子ども達の一生懸命な眼差しと、工作への熱心な取り組みには、いつも新鮮な感動があり、まだ木工部の活動に参加されていない会員の方には、是非この貴重な活動体験を勧めます。

次に東大阪部は、行政からの委託事業という特質もあって、他の部会と異なり誰もが活動参加という訳にはいきませんが、これも大変有意義な活動を継続しています。既に五年を経過した行政との協働関係も、たゆまぬ協議と改善努力の成果が現れ、次第に良い関係性を築きつつあります。住宅改修業者の資

質向上や介護支援専門員の支援、そして市民啓発と、まだまだ課題は尽きませんが、NPO活動として単に住環境改善に留まらない意義が深まることが期待されます。近年の悩みは会員数の減少であり、どの部も活動部員を増やしています。各部が目的を持って取組んでいることが結実しているのでしょうか。

部会は現在六部会と多岐に亘りますが、専らボランティア精神で社会貢献に努める部もあれば、収益をあげる事のできる部もあり、その調和で会が成り立っています。個々の部では実現出来ない活動も「ふくてっく」という旗の下で「みんな」が直接間接にバックアップすることで、共存出来ているのが「ふくてっく」の良さです。

おかげさまで二十一年度を含め、ここ数年は安定した収支を達成し、会運営も落ち着いています。しかし、次年度は部活動の見直しや新たな試みの結果、収入の減少が予測されます。それを受けて理事会での協議や先の総会でも、収益改善策として年会費増額が提案されましたが、理事長としては拙速な判断

は避け「みんな」で対策を考えていきたいと思えます。確かに活動の見直しによって、一時的に収支バランスが悪化するかもしれませんが、前向きな改革であれば凌ぐ術もあるでしょう。年会費の問題はもう少し長期的視野に立って検討すべき課題と、思っています。

二十二年度の新たな取組みとしては、昨年度来少しずつ関わりが始まった「野田の家(ななどこ庵)」があります。また、「ふくてっく」の前進である「福祉機器・住宅研究会」の頃に関わった「青葉園」のリニューアル事業もあります。今後は、地域と関

わる活動も課題となっていく事でしょう。

そこに、「みんな」が関われる場を増やしていきたいと思っています。社会に対しても、会員にとっても、「数えられない」意義に拘りつつ、そうした活動に「みんな」で共感出来ること、そして地域に馴染み、地域を巻き込み、内に外に仲間を増やしていければ喜ばしい事です。

「ふくてっく」が、その原点に立ち返って、全員参加の活動体になれるよう、積極的な参加、よろしくお願ひします。

ふくてっく理事長
小川忠雄





お猿の鉄棒人形-A

七月三十一日(土) 真夏の今日は暑すぎるぐらいの好天気、十時から始まる城東区人権推進センター主催による「二〇一〇いきいきサマー元氣フェスタ」の木工教室である。

行列の出来る

「真夏の木工教室」

木工教室



無料です



- ①竹のお猿鉄棒人形
- ②音を奏でる 木工カリンバ
- ③犬のメモ付エンピツ立て
- ④子どもが自分で描く おにゃんこファミリー
- ⑤ペンダント、ストラップ ループタイの木工3点セット



ペンダントなど3点セット

九時前より担当のふくてつくメンバー全員が集合し、お客さまに楽しんで頂くためキットや道具を車から降ろし準備を始めました。この催しは毎年大変多くのお客さまにきていただいております。今年も大盛況で朝九時半頃の会場入口には既に行列ができる親子づれがかけつけていただきました。

お客さまも真夏の暑さにも関わらず参加いただき、心よりお礼申し上げます。本日のキットは全部で五種類、各種四十セットの二百セットを揃えました。

一ヶ月以上の準備時間を要し木工部メンバー全員が頑張って仕上げてくれました。



おにゃんこファミリー



犬のメモホルダー

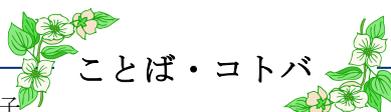
十時になり会場がオープンすると同時に会場の各コーナーに多くの親子づれが押し寄せ木工教室もあれよあれよという間に作業机はお客さんで満員、順番を待つていただく状況となりました。

作業机では「夏休みの宿題をしつかり作るぞ!」とばかりに必死に作業する親子の姿「家の中も暑いし涼しいこころでしつかり楽しもう!」と会話をしながら作業する数名の子ども達グループなどで会場内はごったがえし、

ふくてつくのオッチャンやオバチャン達も少しでも木工作品をいいものに仕上げてもらおうと時間を忘れてお手伝いに精を出しました。おかげさまで準備した二百セットの木工作品は終了時間の関係で十二個を残しただけでほとんどが完成品となりお客さまの手に渡りました。

出来上がった木工作品を

子供達が音をだしたり、動かししてみたり、自分の塗った色合いに関心したり満足そうにしている姿を見ると、頑張った多くの作品を作った甲斐があったと全員のメンバー満足したように思います。最後は後片付けや熱気とひと気で疲労感はありませんでしたがほんとうにありがたい楽しい一日であったと思います。(西川朋生)



『バリデーション』

和泉秀子

認知症の高齢者とコミュニケーションを行うための方法の一つです。

ご本人に対して尊敬と共感を持つことを基本とし、病状の進行に合わせてアイコンタクトや口調、表現方法などのテクニックを用います。認知症の方が騒いだり、徘徊したりすることにも「意味がある」として捉え、なぜ騒ぐのか、なぜ徘徊するのかをご本人の歩んできた人生に照らして考えたり、共に行動したりするというもので、「共感して接すること」に重点を置きます。

- ・共感を持って、相手の言うことを繰り返す
- ・相手と同じ目の高さで、目をみつめる
- ・はっきりした低い優しい声で話すと、相手は安心する
- ・相手の感情の動きを感じ取り、声の調子や感情を相手の感情に合わせる

『行政もさまざま』

東大阪部会では、数年前より府下の介護保険住宅改修及び高齢者・障がい者住宅改造費助成の運用実態調査の意義が提議され、今回行うことになりました。部会メンバー全員で府下43市町村を割り振り約1ヶ月かけて調査いたしました。

私は2・3日の間で4市町村の調査を担当、10人の行政の方から聞き取り調査をさせてもらいました。

訪問前に部署先に電話で聞き取り調査の趣旨を説明しますが、「何を調べているのか」といつたげんな表情がうかがわれます。何か我が役所の部署の調査でもしているのでは、『どこの誰か分からないがいったい何者なのか・・・』対応はさまざまです。訪問前の担当部署への電話では、対応に出た方への聞き取りとなるが、電話口に出られた方も迷惑な話だったかと思う。なかには親切にも部署の上司ともども資料を探し廻ってくれる所もあれば、当事者でなければ資料はお出しできませんと、けんもほろろに対応する窓口とさまざまです。

もっとも前者は人口も少なく余り活用されていないので、書類の保管場所が判らず皆で探していたのでは、いずれにしろ担当の窓口は人口の少ない所のほうが対応の時間も接客態度も丁寧な思いました。またなぜか窓口の担当は男性がほとんどで、当初女性が対応に出ても用件を話すベテラン？の男性職員が替わって用件に応えられる。我がふくてっくの女性陣とは大違い・・・よい意味で。
(後藤秀樹)

『窓口担当者は、制度活用の要』

私が担当したのはA市とB市です。

先にA市へ出かけました。A市役所の「健康部 高齢社会室 介護給付課」を尋ね、ふくてっくの名刺を出してヒヤリングに来た経緯をお話しましたところ、担当の方が2名対応して下さいました。A市では障がい者、高齢者とも「住宅改造費助成事業」は行っていないとのことで、介護保険による住宅改修に関する事のみでのヒヤリングになりました。「一体何を聞きに来たのか」と思っているのか非常にピリピリした雰囲気でしたが、結果は質問したことには（質問したことについてのみ）丁寧にお答え下さいました。名刺は受け取っては下さいませんでした。

B市の場合、実施は区単位になるので私が住んでいる区役所に行きました。最初介護保険課を尋ね、ヒヤリングの目的と経緯をお話しましたところ、「市に直接聞きに行ってください」と言われ、さらに、ただ、「移動してきたばかりであり詳しくないのですが・・・」と当惑されていたようですが、それでも一通りのことは教えて下さいました。B市では障がい者、高齢者とも「住宅改造費助成事業」は実施されています。窓口が全て異なり、置いてある資料もバラバラで、介護保険が一番少なく、高齢者の改造助成に関する資料が最も充実しており、この差について少し違和感を覚えました。こちらでは介護保険課で出した名刺が次々と窓口を移動して担当者に取り付けて下さいました。B市全体の申請件数は区役所では分からなかったのですが、後日B市役所に電話をし、教えてもらいました。

2つの市しか行っていませんが、それでも何となくですが、うまく制度が活用されるかどうかは窓口担当者の制度に取り組む姿勢にかかっているような気持ちが拭えませんでした。
(山本尚子)

東大阪部会

大阪府下市町村住宅改修等の
制度の実態調査に関わって・・・



『自治体によって微妙に違う、考え方・関わり方』

以前から他所の市は考え方が違うのは知っていましたが、大阪府下内でどれだけ差があるのか、一度調べてみたいと思っていた所でした。私が担当したのは8つの市町村です。

調査して感じたのは、地域性から来るのか、人口の多さから来るのか大きく2通りに分かれることでした。

C町とD町は大阪では無いぐらいの、どかな山村風景で考え方も大らかで、良い意味では地域密着型、利用者も業者も役人も皆、顔見知りで問題はないと言ったゆるい感じを受けた町役場でした。それに近いのがE市とF市で、ある程度システム化は進んでいるように思われたのですが、細かい所は決めていませんと、ここも大らかさを感じました。

対照的に、G市・H市・I市・J市は、介護保険の住宅改修はもちろん、高齢者や障がい者に対するの助成事業も充実しており、システム化もある程度進んで、訪問調査も行っているなど、大きく違いました。

ただ、残念なのは調査協力をお願いしても何を勘違いしているのか、非協力的な窓口の担当者が未だに何名か居り、調査不十分に終わったのが残念だったことです。

今回の調査から、東大阪市の住宅改修の対応は一定以上のレベルになっていると改めて認識しましたし、まだまだ改善の余地があるのも判りました。これを機に制度をよりよく活用してもらえらる様に更なる見直しきっかけになれば良いと思った、有意義な調査であったことは間違いありませんでした。
(磯田吉郎)

♥ 東大阪部会では、この秋、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して生活するための制度である「介護保険住宅改修」や「重度身体障害者住宅改造費助成事業」等について、大阪府下43市町村に出向き、申請手続き等の聞き取り調査を実施いたしました。

福祉用具部会



「シーティング」

福祉用具部会では、福祉用具の中で代表的な移動手段として車いすの研究を進めています。一つの要素として、シーティングの重要性に注目しました。

シーティングとは、車いすの姿勢保持を正しく行うための技術です。

効果として、床ずれを無くし、長時間の車いすの使用を可能にします。また、姿勢の矯正により、二次障がいを防ぎます。

シーティングは、まだまだ一般的に認識されていない事ばかり、利用者が快適な生活を送れることを目標にし、各情報を集めて、勉強をしています。

(荻田保志)

住環境研究部会(略称:住研)

「誰もが豊かで安心できる住環境をめざして」

「住み慣れた地域や住宅でなるべく長く住み続ける」これが高齢者福祉の最大のテーマですが、在宅介護も限界があり、施設入居も全体収容力や経済的な問題も多いのが現実です。

最近の老老介護、介護崩壊、高齢者虐待等の問題は狭くバリアだらけの住宅環境とストレスに起因している場合が多いと考えられます。

最近まで「住宅改修部」として、一軒でも多くの住宅のバリアフリー化をめざして活動してきましたが、二〇一〇年八月より、部名を改称し住宅に限らず、もっと広い意味での今後の高齢者の住環境のあり方を探求し、超高齢社会の問題をわずかでも改善するために役立つことを目的とします。

『具体的活動』

- ・ 従来からの住宅改修(バリアフリー)の設計、コーディネート、施工
- ・ 日本における高齢者施設の勉強会
- ・ 日本の超高齢社会の様々な問題についての勉強会
- ・ 知人友人の家族、親族、知人等の介護の悩み相談等に関する協力
- ・ 「老後の生き方、住み方、老化防止等」の勉強会
- ・ 小冊子の発行
- ・ 学習内容発表、講演活動
- ・ その他

(畑 俊二)



こむねっと部会の再起方針 2010

従来のかむねっと部会は、ひとまず焼身させた上で蘇ります。

目的とするところは・・・

ふくてつきの原点に戻り、公益性・第三者性・専門性、そして市民の目線に立った市民生活環境の改善運動を展開し、責任ある市民社会を醸成することです。

その遂行をコミュニティビジネス手法により実現することを目指し、様々な事業の起草を企てますが、そうした起業のひとつ一つを安定した「運営体」に落ち着かせることを求めず、絶えず「運動体」原点であることを基本理念とします。

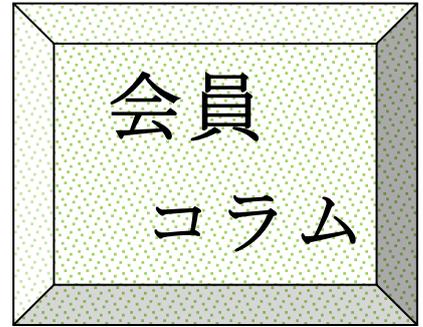
メンバーに求める資質は、目標に向かって全力で打ち込む熱意(責任と自主性、自己啓発性)と、全ての関係者に対して真実と公平性を持って応じ、併せて冷静な判断と客観的論理性・言語性をもって行動する姿勢です。

当面の具体課題として・・・

- ① 6年近くに及んだ福祉サービス第三者評価業務に培った理念と、3カ年に亘る建物定期検査の実績を統合して、医療・福祉施設改善コンサルティング業務を開拓し、実業とする。
- ② 「施設を超える地域福祉の創造」「高齢・障がいなど福祉ジャンルを超えた集住モデル」など、新しい都市生活モデルの実現に取り組む。

これらを遂行するために、同様の理念を持つ個人・団体と、そのセクターを問わず連携し、協働すべく、ネットワークを拡大します。(中北 清)





すべらんうどん

岡 道信

うどんを作ろうと思つて10年になるうとして、はじめはうどんを作ろうと思つたのではない。

自分が障害を持つて何をすることも人の手助けを借りなければ生活できないことにうんざりしていた。

四六時中不特定多数の人の手を借りる。

見ず知らずの人に世話になる。それはとてもありがたいことであるが何か借金をしていないか、お返しがないか、お返しがないことに悶々としていた。

そんなときIさんにオーストラリアで初めて出合った。Iさんは飲みに行くと

びに、私がお客さまとした気持ちで話すと、世話になつた人に恩を返す必要はない。返せるようになったら誰かに返せばいいと言つていた。そのおかげで多少なりと気持ちが和らいだ。

そして別にそれがきつかけではないがふとあるとき心に人に役立つもの作りと言ふ言葉がうかんだ。それ以来口癖のように食卓でそのことを口にするようになった。不特定多数の人にお世話になるのだから不特定多数の人に役に立ちたい。人に役立つもの作りのきつかけとなつた。

それから色々あつて十年、食べやすく縁起のいいうどん。かなりのひとが「すべらんうどん」を受け入れてくださった。うどんの形やネーミングのおかげで、幸いいろいろな人に精神的にも体にも役立つ。

正直アイデアがおおよそ固まつたときに自分では商売にする気はなかつたので大手二社の製麺会社に変わりによつていただくことを依頼したが取り合つてもらえず仕方なく自分でやり続けるしかなくつた。

その時の大手製麺所の部



長に言われたことが今も忘れられない。「岡君、同じ土俵で勝負できないのが残念です。」 また製品になりマスコミさんが取り上げてくださったところ大手百貨店のバイヤーさんからの聞こえて来た言葉が忘れられない。「盲人とその年老いた母では信用できないですね。」 そうやないやろ。人に役に立つと思つて提案しただけやその時は言いたいことを飲み込みやつと十年目で同じ土俵やらで販売できる...。また誰もがなじみの学問の神様天満の天神さんで商売していただける。

ありがたい。

自分の思いはどうでもいいが人様の好意で生まれたすべらんうどんが全国に広がってほしい。そして色々な意味で人に役立つ。

ある日のお客さまとの会話

秋岡



客：NPO法人へ現金寄付したいんやけど？

私：相手先が認定NPO法人だったら寄付金控除が受けられるので、確定申告すれば税金が戻ってきますよ。

客：土地を寄付した場合はどうなるの？

私：土地を今の相場で売つたものとみなされます。儲けがあれば税金がかかります。認定NPO法人に対する寄付でも同じです。

客：ええ。土地あげてさらに税金まで出さなあかんの？ひどい話やね。ところで、相続財産の土地を寄付した場合は？

私：認定NPO法人への寄付だと相続税対象から除かれます。但し、寄付の時期など要件に注意して下さいね。認定を受けていない法人だとそういう優遇はありません。

客：認定NPO法人になるための要件は何？

私：いくつもあります。一つ超簡単に言いますと寄付金収入と会費収入

の一部の合計金額(A)が総収入から行政の補助金や委託金を除いた金額(B)の二十%以上なければならぬということ。 (A) ÷ (B) ≥ 1/5

客：なんか難しそうやね。

私：そうですね。今、全国で四万超のNPO法人のうち、認定NPO法人は百七十九社だけです。大胆な要件の緩和を望みます。

サイコロ算数教室

樋口文彦

平成二十二年四月四日(日)私の地域活動として、「サイコロ算数教室」を行いました。春休み最後の日曜日でも桜も満開でした。低学年八名、高学年四名、その他幼稚園児四名、中学生二名、お母さん五名の総計二十三名に参加して頂きました。味噌は多少工夫を加えた六種類八つのサイコロをつかって、双六を四五人のグループで遊ぶことです。



サイコロは水道方式で有名な数学者遠山啓先生の理論を取り入れ、双六としてゲーム方式にしたものです。大仰に言えば現代数学の基礎と教育論にもとづいた、初歩の数学教育の新しい方法と言えらると思います。これらの人数を講師一人、補佐二人で、二時間たっぷり、興味を失わず学習しながら、させながら・遊ばせながら、楽しく過ごさせていただきました。

■ H22 年 7 月以降 学習会

7 月「がん、ビフォー・アフター」
講師：武内 務 氏
NPO 法人 キャンサーネットジャパン 職員・建築士

8 月「AED の知識と使用方法」
講師：海道警防担当指令松田氏他 3 名

9 月「中国医学の真髄
・・身体のサインで病気がわかる」
講師：当内知恵子氏

10 月「古い町並みの歴史と映像
・・・私のライフワーク」
講師：稲住泰広 写真家

11 月「すべての人が安全かつ快適に
移動できるバリアフリーの
まちづくり」
講師：高橋剛蔵氏 細江太郎氏
大阪市計画調整局開発調整部
まちづくり支援

12 月「さつきつつじ会の歩み」
講師：森口芳樹
さつきつつじ会代表

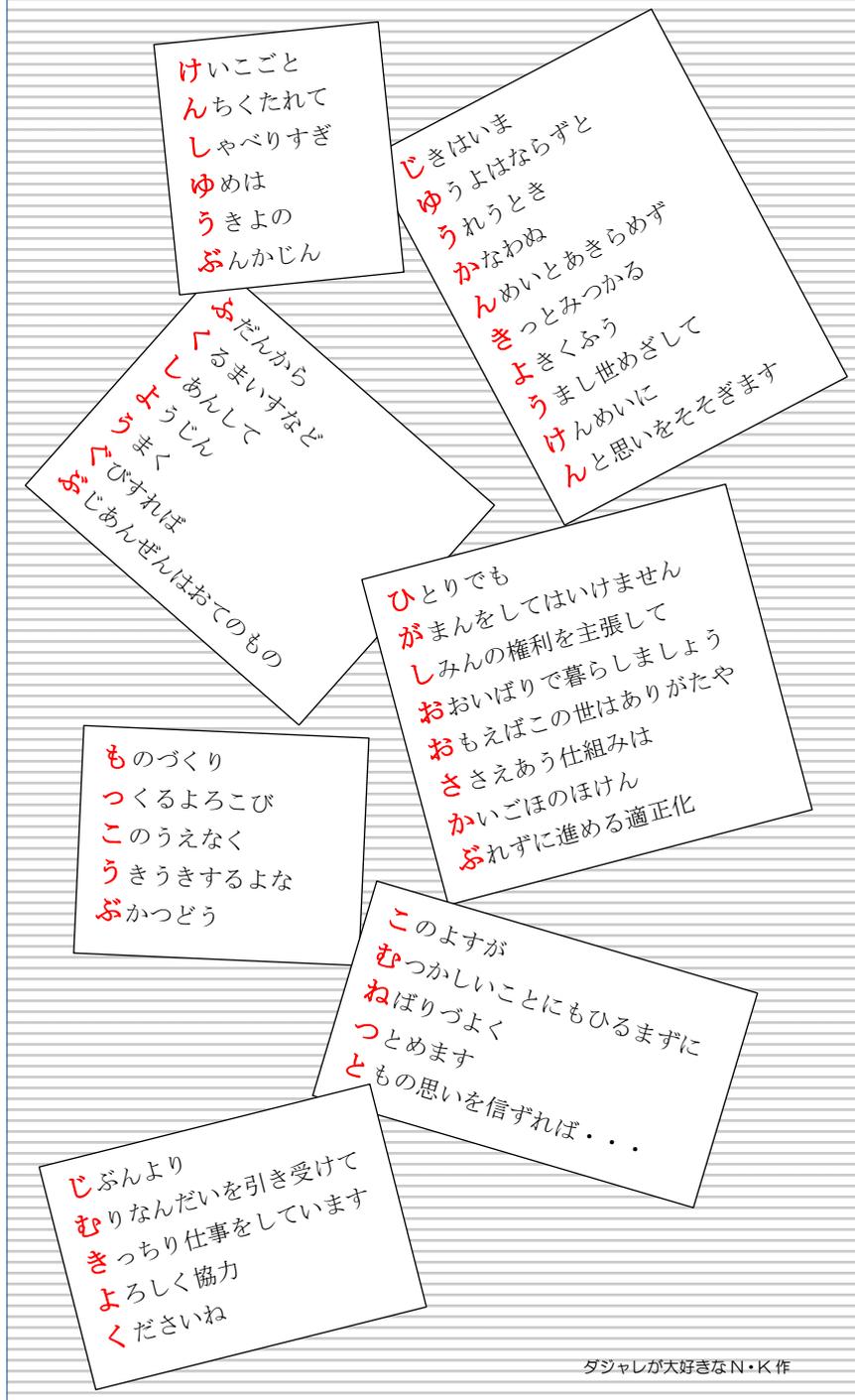
■ H23 年 定例会・学習会 予定

1 月 8 日(土) 13:30~17:00 頃
会場：ななとこ庵
・親睦会

2 月 5 日(土) 13:30~17:00 頃
会場：大阪市立社会福祉センター(予定)
・学習会
「間違いだらけのバリアフリー改修」

3 月 5 日(土) 13:30~17:00 頃
会場：大阪市立社会福祉センター(予定)
・学習会
「高齢者住宅の種類と選び方」

※ ふくてっく 語呂合わせ



ダジャレが大好きな N・K 作

NPO 法人ふくてっくとは・・・

ふくてっくには、建築・医療・福祉分野の有資格その他、多岐に亘る専門職が参加しており、お互いの専門領域における見識と誇りを大切にしつつ、相互の研鑽しあう機会を育てています。キーワードは「生活者の視点、当たり前の感覚です。」是非あなたも仲間に入って、自らの人生を耕しませんか。一度、定例会（原則：毎月第 1 土曜日、13:30～）にご参加ください。定例会では、会員の活動報告や講師を招いての学習会等を行っています。正会員以外の方が定例会に参加される場合は、参加費 500 円です。

*会費：入会金/無料

：年会費/正会員 10,000 円、学生会員 3000 円、通信会員 500 円

*連絡先：TEL 06-6614-6800

ホームページ <http://fukutech.sakura.ne.jp/>

メールアドレス mail@fukutech.sakura.ne.jp

